



すみ場をさがそう！

◆みんなで生きもののすみ場をさがしてみよう！

●魚が生活する場所はどこ？

えさになる藻や虫がいる

石のかけ

かくれられる水草の中など



●川底の生きものが生活する場所はどこ？

石のうらがわや水草など

川底の石をうらがえてみよう

小さい虫たちがいるでしょうか？



●鳥が生活する場所はどこ？

えさになる虫・魚・水草がある川の中

休んだり、巣作りができる水草の中

草むらや木の上など



10

〈本ページのねらい〉

実際に生きものすみ場を探すことによって、教室での座学だけではなく現場での経験を通して、生きもの生態について学ぶ。

〈ポイント〉

生きものはどのようにしてえさをとっているのでしょうか？

■ 魚

魚は、視覚の他に嗅覚や聴覚でもえさを感知している。また、体全体に通った側線によって振動を感じ取り、体全体が耳のような働きをしている。どの機能が重要かは、魚種によって異なる。

■ 川底の生きもの

微生物やデトリタス（生物遺体や生物由来の物質の破片や微生物の遺体、あるいはそれらの排泄物を起源とする微細な有機物）、藻類を食べる。

■ 鳥

鳥の種類によって異なる。飛びながら虫をとったり、空中を旋回して魚や虫を見つけてとったりする。また、水草などの植物をえさとする鳥もいる。

〈発問〉

● 魚は、どうやって眠っているのでしょうか？

⇒魚にはまぶたが無いので、寝ているかどうかわかりにくいですが、岩のかけや水草の間でじっとしているときは、寝ていると考えてよい。もちろんそのときも目は開いたままである。

ふつうは、このように岩かけや草のかけでじっとして寝ている。しかし、魚の間には、砂の中にもぐって寝る種類のものもいる。このように、魚の種類によって、眠り方も様々である。

〈本ページのねらい〉

河川の様々な水際の植物を想像して、身近な川の植物が豊かであるといえるか調査する。上流・中下流・河口域によっても植生は異なるので場所ごとの特徴も理解する。

〈ポイント〉

植生に影響を及ぼす因子を把握する。

※一部、事前調査を行う必要がある。

植生は、川の流れや地形によって、大きく異なる。

また、季節や、調査対象の河川がある地域の気候なども、植生に大きな影響を与える。

河川を取り巻く環境をよりよく知るために、植物の「有」「無」や「多い」「少ない」だけではなく、その植物がどのような環境に生育するものであるかを調べることが大切である。

また、対象河川周辺の地形や構造物の有無を把握することで、植生に及ぼす人為的な影響の程度を調べる。

調べてみよう！

川原や水際の植物の種類も調べてみよう！

カメラ撮影やスケッチで植物の種類を記録して学校に持ち帰り、図鑑やインターネットを使って調べてみよう！

2. ゆたかや生きもの

● 川原と水際の植物 ●

川原と水際に植物がはえていますか？



川原・水際の植物を調べます。ゆたかな植物は、多くの生きものが生息できる場を提供します。調査地点の周辺の川原・水際の植物のようすを調べましょう。

種類が多く、たくさんはえている (3)



ところどころはえている (2)



はえていない (1)



〈発問〉

● なぜ、植生がゆたかだと、生き物もゆたかなのでしょうか？

⇒エサとなる昆虫が、水際の植物に住んでいる。

⇒植物が生き物のすみ場（巣）の材料となる。